

自衛隊が後方支援訓練

米軍作戦参加 最前線まで数キロ

米カリフォルニア州で行われている米軍主催の水陸両用作戦訓練「ドーン・プ」で、自衛隊は6日、後方支援の部隊を初めて上陸作戦に参加させた。

後方とはいえ前線のすぐ後ろで、境界はあいまい。一定の危険も想定しての訓練だ。安保法案は戦闘中の他国軍に対する後方支援を地球規模に拡大する。今回の訓練について、防衛省関係者は「海外任務にも応用可能な訓練だ」と話す。

前日に第一線の戦闘部隊が上陸した砂浜に6日午前9時すぎ、トラック、ブルドーザー、救急車などが揚陸艇から上がって来た。後方支援部隊の陸上自衛隊員約30人が1時間半ほどでテントやカムフラージュの網を張り、最前線の戦いを支

える後方支援拠点を設置していった。指揮所や傷病者の収容所、弾薬の集積所、車両の整備拠点などだ。「区別は困難」

この場所は最初の上陸部隊が通過して整備の部隊を配置し「安全化した」(陸自関係者)地域だが、最前線までは数キロ。医療活動など「民間の支援は不可



小銃を構えながら後方支援拠点へ向かう陸上自衛隊員ら＝6日朝、米カリフォルニア州のペンドルトン基地、福井依介撮影

能」とされる地域だ。「敵からの攻撃を受ける可能性は一定ある」(同)と、隊員は小銃や拳銃を構えて警戒しつつ活動した。イラク派遣経験のある自衛隊関係者は言う。「前線と後方の区別は本当に難しい」

これまでの離島奪還作戦の訓練は、攻撃部隊の島への潜入や進撃が中心だった。陸自は今回、南西諸島の比較的大規模な有人島への侵攻に対する長期にわたる反撃も想定。「最初の上陸作戦部隊の戦闘力を維持するには後方部隊が必要」(自衛隊幹部)として、拠点から離れた地域に物資を継続的に送り込む後方支援の訓練を初めて行った。

訓練の管理を担当する統合幕僚監部の西森浩3佐は「上陸した部隊に、いかに補給を継続するか、いかに早く負傷した隊員を治療し後送するかポイント。今回は、日米共同での手順も確認できた」と話した。

想定にズレも この訓練について自衛隊は「現行法の個別的自衛権での離島防衛訓練で、後方支援もその一環」と説明するが、米軍とのすれ違いもみられた。「政情不安などで助力を求める友好国を、有志連合が軍事的に救援する想定だ」。米海兵隊のデ

「上陸した部隊に、いかに補給を継続するか、いかに早く負傷した隊員を治療し後送するかポイント。今回は、日米共同での手順も確認できた」と話した。

訓練には日米のほかニュージーランドやメキシコ軍も参加。米軍には多国籍軍の上陸作戦が視野にある。防衛省関係者は「後方支援訓練は、安保法案成立後の海外任務でも、戦闘部隊への支援という枠組みは同じで応用可能だ」と認める。

派遣では、自衛隊が「非戦闘地域」で独自に活動するから、憲法が禁じる他国軍の武力行使との一体化は起きないという考え方を政府はとった。それでも、イラクでの自衛隊の空輸活動で他国軍の兵士を運んだ先のバグダッドは戦闘地域だったとして、名古屋高裁は08年、「憲法9条に違反する」と判断した。

審議中の安保法案は、戦争中の他国軍への自衛隊の後方支援の内容を格段に広げ、「現に戦闘が行われている現場」以外なら活動できるようにしており、一体化がより進むおそれがある。(サンディエゴ)福井依介

想定にズレも

この訓練について自衛隊は「現行法の個別的自衛権での離島防衛訓練で、後方支援もその一環」と説明するが、米軍とのすれ違いもみられた。「政情不安などで助力を求める友好国を、有志連合が軍事的に救援する想定だ」。米海兵隊のデ

派遣では、自衛隊が「非戦闘地域」で独自に活動するから、憲法が禁じる他国軍の武力行使との一体化は起きないという考え方を政府はとった。それでも、イラクでの自衛隊の空輸活動で他国軍の兵士を運んだ先のバグダッドは戦闘地域だったとして、名古屋高裁は08年、「憲法9条に違反する」と判断した。

審議中の安保法案は、戦争中の他国軍への自衛隊の後方支援の内容を格段に広げ、「現に戦闘が行われている現場」以外なら活動できるようにしており、一体化がより進むおそれがある。(サンディエゴ)福井依介